

## 志賀原子力発電所2号機 供用期間中検査計画の管理状況に関する調査結果について

平成22年9月29日  
北陸電力株式会社

本日(9月29日)、志賀原子力発電所2号機の供用期間中検査<sup>1</sup>計画の管理状況に関する調査結果について、原子力安全・保安院に報告しましたので、お知らせします。

当社は、他社の原子力発電所において、定期検査および定期事業者検査の一環として実施している供用期間中検査でポンプおよび弁の一部の溶接箇所が検査計画に含まれていなかった事象を踏まえ、原子力安全・保安院からの指示に基づき、同様の事象がないか調査を行ってきました。

今回、志賀2号機の調査の結果、原子炉隔離時冷却系<sup>2</sup>のポンプ支持部材取付け溶接箇所(4箇所)が、供用期間中検査の計画に反映されていないことを確認し、同院に報告するとともに、計画に反映しました。

当該箇所の検査については、運転開始後10年以内に実施するよう定められており、今後、適切に検査を実施します。

なお、志賀1号機については、内側主蒸気隔離弁に接続しているドレン管の溶接箇所(弁1台当たり1箇所、計4箇所)が、供用期間中検査の計画に反映されていなかったことから、当該4箇所の検査を追加実施し、異常のないことを確認しています。

(8月26日 お知らせ済み)

以上

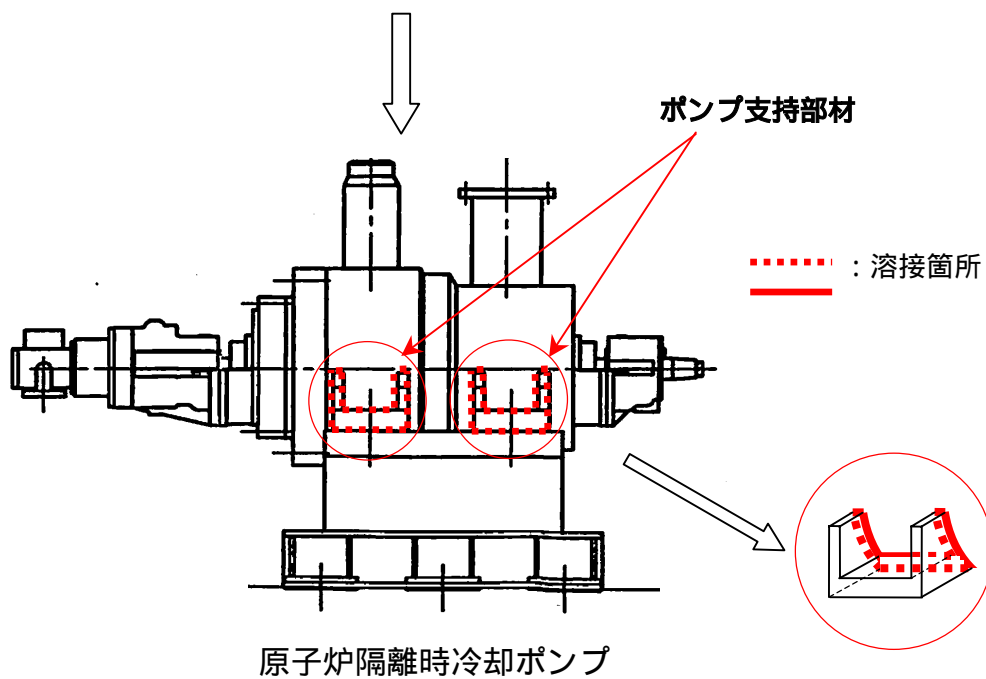
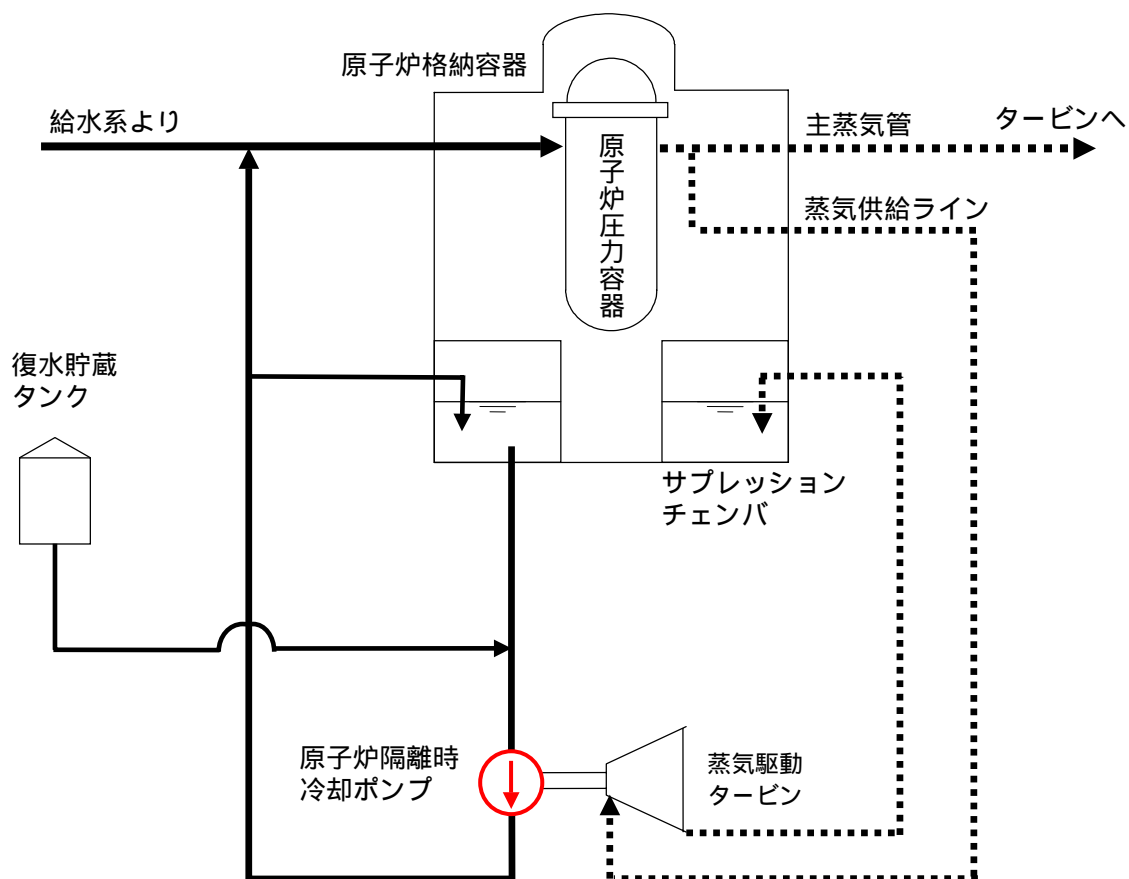
添付資料：原子炉隔離時冷却系のポンプ支持部材取付け溶接箇所

### 1 供用期間中検査 (ISI : In Service Inspection)

原子力発電所の運転(供用)開始後に、容器、配管などの機器の経年劣化状況を把握するため、機器ごとに検査方法・検査範囲・検査時期について10年間で1つの期間として計画的に定めて実施する検査。

### 2 原子炉隔離時冷却系

何らかの原因により、通常の原子炉給水系が使用できなくなり、原子炉水位が低下した場合等において、原子炉の蒸気を駆動源にしてポンプを運転し、原子炉の水位確保および炉心の冷却を行う系統。



原子炉隔離時冷却系のポンプ支持部材取付け溶接箇所